

助けを求めめるのか？

なぜ若者はインターネットに

若者のコミュニケーションにはスマートフォンやSNSが欠かせなくなっており、そしてインターネット上には「死にたい」といった言葉があふれている現状があります。

なぜ、友人や家族等のリアルな人間関係で直接相談をせずに、SNSを使って救いを求めるのか？ネットの世界で「死にたい」と発信する若者の心の理解を深め、どう向き合っていけばよいのか、一緒に考えてみませんか？

NPO法人OVA代表理事
精神保健福祉士

伊藤 次郎氏

-講師プロフィール-

学習院大学卒業後、人事コンサルティング会社・精神科クリニックにて働く人のメンタルヘルス対策に従事する。

2013年に日本の若者の自殺が深刻な状況にあることに問題意識が芽生え、「インターネット・ゲートキーパー」の手法を開発・実施し、NPO法人OVAを設立した。

メディア掲載歴は朝日新聞「ひと」「社説」、NHK「ハートネット」等々。AERA「社会起業家54人」（2018）

国や東京都の自殺対策の委員を務めたり、複数のSNS事業者のインターネットの安全利用にもかかわるなど、幅広く活躍中。



日時

令和元年 **10月6日** (日)

10:00~12:00

場所

みなと保健所 8階 大会議室
(港区三田1-4-10)

対象

どなたでも参加できます。

申込

みなとコール 電話 **5472-3710** (9~17時まで)
当日、生活相談も受けられます。(区民のみ、事前予約制)
生後4か月以上、未就学児の保育あり。(区民のみ、定員5名)

若者の「死にたい」に向き合う

問合せ先：港区みなと保健所 健康推進課地域保健係 (6400-0084)